■4/27（読売夕刊）ママさんが頑張る ホッケーの全日本女子チーム元主将で、昨年9月出産したばかりの奈良市の主婦、飯田育子さん（28）が、15日に開幕した西日本リーグで、現役に復帰した。現在、リーグただ1人のママさんが選手だが、「子供の選手がもっと増えればいいですね。子供にプレーを見せるのは、いいことだと思う」と、飯田さんは長男将道さんが試合を理解できるようになるまで頑張るつもりだ。

■5/16（朝日共同）母は強く 英国の2児の母親（33）が女性として初めて無酸素、単独で世界最高峰エベレスト（8,848メートル）の登頂に成功。この女性はアリソン・ハーグリーさんで、13日に登頂に成功。頂上から2人の子供を「トムとケイト、お母さんは今世界の最高峰に立ったわよ。2人を愛している」とのメッセージを無線で送った。

■5/20（朝日） リーグに女性の笛も 日本サッカー協会は27日の評議員会で審判の「女子1級」の資格を新設する。審判資格は1級から4級まで分かれているが、男女の区別はなかった。しかし女子の体力で1級のテストに合格するのは難しい。女子だけの資格をつくってリーグ（日本女子サッカーリーグ）で主審を担当できるようにする狙いだ。

■6/7（読売） プロ、アマの垣根、より低く フィギュアスケートの伊藤みどり（25=プリンスホテル）が「アマチュア」に復帰した。プロ転向から3年。アマ復帰といえば、アイスショーへの出場は続けることが出来る。みどりは「アマ競技会の緊張感が懐かしい。ショーで楽しく滑りながら、競技会にも出場したい」と言う。転換を迫られたのには、3年後の長野五輪を控え、人材不足という日本連盟の事情がある。